



[審査証明番号/有効期限]	BCJ-審査証明-043/2023年12月5日
[技術の名称]	建築物の外壁補修技術「GNSピンネット工法」
[依頼者(審査証明取得者)]	全国ビルリフォーム工事業協同組合

[技術概要]

鉄筋コンクリート構造及び鉄骨鉄筋コンクリート構造の建築物における外壁等の既存仕上げの上に、新たにネット補強下地層を構築して、タイルやモルタル等既存仕上材の落下を防止する補修工法である。

[開発の趣旨]

鉄筋コンクリート構造及び鉄骨鉄筋コンクリート構造の建築物に対し、経年劣化した既存の外壁仕上材を保護被覆して耐久性の向上を図ることによって、社会資産である建築物を健全に維持保全し、外壁仕上材の落下による事故を防止する。

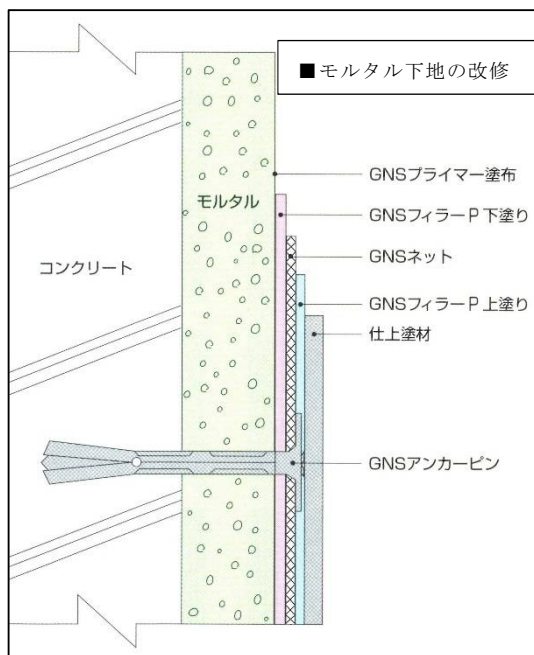
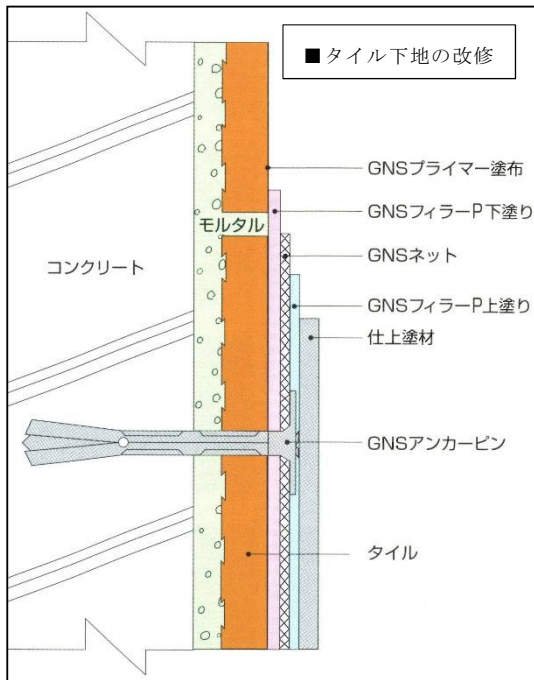


図 GNSピンネット工法の断面構成

[開発目標および審査証明結果]

本技術について、前記の開発の趣旨、開発の目標に照らして審査した結果は、以下のとおりである。

- (1) プライマーを塗布した上、接着性の高いファイラーを塗り付け、それにビニロン製三軸ネットを埋め込み、ファイラーで仕上げ、付着強度 $0.4\text{N}/\text{mm}^2$ 以上、幅 1cm 当たり引張強度 60N 以上の面的なつながりを持つ下地層を新たに構築し、既存の外壁を被覆して仕上材の剥離落下を防止することができると判断される。
- (2) 新たに構築した下地層をアンカーピンを用いて留めつけることによって、既存の外壁に対する保持強度 $2,000\text{N}/\text{m}^2$ 以上を確保し、安全性を向上させることができると判断される。
- (3) 既存の外壁と新たに構築した下地層との一体化により、下地層のひび割れを分散させてひび割れ幅の拡大を防ぎ、落下に対する予防保全を行うとともに、耐久性能を確保することができると判断される。
- (4) 既存の仕上げを残すことによって、廃材の発生を抑制し、工期の短縮を図ることができると判断される。
- (5) 当該工法を適切に施工するために必要な標準施工マニュアルが定められており、施工体制が確立できるものと判断される。

[本技術の問い合わせ先]

全国ビルリフォーム工事業協同組合
担当者名：臼井信行
TEL：03-3454-4371
FAX：03-3454-4377

・技術紹介サイト

<http://www.jbr-gns.com/>